

2025 年度事業報告

2025 年度の社員総会で議決された事業計画の実施結果を以下のとおり報告する。

I. 総括

セーフティグローバル推進機構は、「安全・健康・ウェルビーイング」の実現に向け、ケガ・病気・ストレスを最小化すること（働く人々の状態をマイナスからゼロへ引き上げる）にとどまらず、さらにそれらを向上させること（ゼロからプラスへ高める）により、生きがい・やりがい・働きがいを持って働ける社会の実現を目指すべきであると提唱している。

また、IEC 白書「Safety in the Future」への参画（2020 年）や第 2 回ビジョンゼロサミットの日本誘致（2022 年）などの活動を通じて、世界各国の安全・健康・ウェルビーイング関連団体との関係を構築し、国内外における認知度向上を図ってきた。

2025 年度においては、GISHW（The Global Initiative for Safety, Health & Well-being at EXPO2025 and Beyond）の主催団体の一員として、EXPO2025 大阪・関西万博会場およびインテックス大阪において、7 月 16 日（水）から 19 日（土）まで、「The Gift for the Future “Safety, Health & Well-being for All”（未来への贈り物—80 億人の安全・健康・ウェルビーイング）」をテーマに 9 つのイベントを開催した。その結果、68 か国・地域から計 1,385 名の参加を得て、国内外におけるセーフティグローバル推進機構の認知度のさらなる向上につながった。

また 2016 年 7 月の設立以来、会長を務めていただいた向殿政男氏から、2025 年度の社員総会において井上悟志氏へ会長職が引き継がれた。本交代は、セーフティグローバル推進機構のこれまでの理念・活動を継承しつつ、持続的な発展と組織運営の安定性を確保する観点から、組織の継続性を考慮して実施したものである。なお、向殿政男氏には名誉会長として、引き続きセーフティグローバル推進機構の発展に対する助言および支援をお願いする。

II. 重点施策活動概要

1. 要員認証および適合審査

それぞれの制度の運用の安定化と受験者数、審査依頼数の増加を目的とした活動を継続した。セーフティオフィサ資格制度、Safety2.0 適合審査制度の 2 つの制度は、当初設定した目標に至らず、当該施策全体目標は未達成となった。

1) ロボットセーフティアセッサ資格認証制度

本資格制度の受験者数は、2021 年度 211 名、2022 年度 235 名、2023 年度 231 名と、一定の水準で推移してきたが、2024 年度は 202 名と減少した。2025 年度は 212 名を目標として取り組んだ結果、実績は 212 名となり、目標を達成した。

今後は、主な対象であるシステムインテグレータにおける受験者の拡大を図るため、2024年度より開始した日本ロボットシステムインテグレータ協会（Sler 協会）向け講習会の実施および会員企業への受験促進活動を、継続・強化していく。

2) セーフティオフィサ資格認証制度

本資格認証制度の受験者数は、2020年度429名、2021年度933名、2022年度1,287名と順調に増加してきた。一方で、2023年度は1,179名、2024年度は812名（新設した建設SO83名を含む）と減少に転じ、2025年度は952名の計画に対し実績614名となり、計画を大きく下回った。

この主な要因としては、これまで会社施策により受験が進んできた大口顧客において対象者の受験が一巡したことに加え、新規顧客の開拓、特にセーフティアセッサ資格取得企業の裾野拡大が十分に進まなかった点が挙げられる。

なお、建設業向けセーフティオフィサ制度は2024年10月より運用を開始し、2024年度内に83名が受験した。2025年度においては、日本認証と連携して広報・販促活動を実施したものの、目標150名に対し実績115名となり目標には至らなかった。

3) Safety2.0 適合審査登録制度

Safety2.0 適合審査登録制度の新規登録件数は、2021年度1件、2022年度0件、2023年度3件、2024年度1件と推移してきた。2025年度は3件を目標としていたが、実績は0件にとどまった。

今後は、協調安全の指針であるIECガイド127が2025年2月に発行されたことを好機と捉え、同ガイドの内容を踏まえた説明会の開催や導入事例の発信、認証機関との連携強化等により認知向上と導入促進を図り、販売施策の見直しを進める。

2. 広報・宣伝活動

1)安全経営フォーラム

2025年6月18日ビジョンセンター田町において、安全経営フォーラムを以下のテーマ・講演者で実施した。

① i-Construction2.0 ～建設現場のオートメーション化に向けて

国土交通省 大臣官房参事官（イノベーション） 森下 博之 氏

②大阪・関西万博での国際機関との協創と日本のリーダーシップ

セーフティグローバル推進機構 藤田 理事、河田 理事、高崎 理事

GISHW 事務局 赤松 浩二 氏

2) 大阪・関西万博

GISHWの主催団体の一員として、「The Gift for the Future “Safety, Health & Well-being for All”（未来への贈り物—80億人の安全・健康・ウェルビーイング）」をテーマに、2025年7月16日から19日まで、大阪・関西万博およびインテックス大阪において、計9件のイベントを開催した。

特にハイレベル・サミットでは、安全・健康・ウェルビーイングに関わる国際機関、各国機関、企業の代表が参加し、2日間にわたりEXPOホールにてスピーチおよびパネルディスカッションを実施した。

また、国際標準化フォーラムでは、初日に日本産業標準調査会（JISC）会長による開会挨拶に続き、国際標準化機構（ISO）および国際電気標準会議（IEC）の会長より、SDGs達成に向けた両機関の取り組みに関する基調講演が行われた。その後、国内外から集まった18名の専門家によるパネルディスカッションが実施された。2日目には前日の議論を踏まえた成果報告が行われるとともに、日本規格協会より採択された「安全・健康・ウェルビーイング標準化宣言」の概要が紹介された。あわせて、ISOやIECなどの標準化機関との連携を通じ、国際標準化活動を推進し、より安全で安心な社会の実現に貢献していくとともに、協調安全の重要性を発信した。

[9つのイベント]

1. ハイレベル・サミット
 2. プロフェッショナル世界大会
 3. 国際シンポジウム
 4. ILO ユース कांग्रेस
 5. フェスティバル
 6. 展示会
 7. 国際標準化フォーラム
 8. ファインバブルテック 国際シンポジウム
 9. G20 OSHA ネットワーク会議と国際シンポジウム
- 3) キヤノングローバル戦略研究所（CIGS）の公開セミナー

2025年6月2日および10月10日にキヤノングローバル戦略研究所主催で国内の専門家やIGSAP関係者による公開セミナーを開催した。

【テーマ】

AI・ロボットを実現した日本社会

（ワークプレイス・ウェルビーイングと生産性向上に向けた標準化戦略）

2025年6月2日

[プログラム]

- ① イントロダクション: 会合の議題解説
キヤノングローバル戦略研究所 栗原 潤 氏
- ② ロボットの社会実装: 将来と課題
東京大学名誉教授、高等研究所東京カレッジ 浅間 一 氏
- ③ 日本の標準化戦略: 世界基準を目指して
日本規格協会 朝日 弘理事長
- ④ 今後のロボット政策について
経済産業省 製造産業局 産業機械課 ロボット政策室 室長 石曾根 智昭 氏
- ⑤ ウェルビーイングに向けた人機械協調技術
産業技術総合研究所 谷川 民生 センター長
- ⑥ 人間計測・人間拡張でウェルビーイング経営を支援する
産業技術総合研究所 持丸 正明 フェロー

- ⑦建設業におけるウェルビーイング重視の動き
セーフティグローバル推進機構 河田 孝志 理事
- ⑧世界のトレンド：ウェルビーイング重視社会と日本の対応
セーフティグローバル推進機構 井上 悟志会長
- ⑨世界のトレンドへのアカデミアの対応 - GISHW 万博での大阪大学の取り組み
大阪大学 小倉 基次 特任教授
- ⑩大阪・関西万博での国際機関との協創と日本のリーダーシップ
セーフティグローバル推進機構 藤田 俊弘 理事

2025年10月10日

[プログラム]

- ①イントロダクション：セミナー概要
(Global Initiative for Safety, Health and Well-being)
キヤノングローバル戦略研究所 栗原 潤 氏
- ②EXPO2025 大阪・関西万博での国際標準化フォーラム成果及び日本の標準化戦略
セーフティグローバル推進機構 野田 耕一 監事
- ③2025 大阪・関西万博/GISHW 国際シンポジウム
～ウェルビーイングアプローチの総括
「人と機械の協調安全、新時代のモノづくり」
セーフティグローバル推進機構 吹田 和嗣 理事
「建設の新時代を切り拓く革新技術」
セーフティグローバル推進機構 河田 孝志 理事
- ④人・機械協調における高度コミュニケーション技術とウェルビーイング向上
産業技術総合研究所 谷川 民生 センター長
- ⑤GISHW の新潮流：日本発『グローバル産学官連携』への挑戦
「IGSAP beyond EXPO：ホリスティックアプローチの深化」
セーフティグローバル推進機構 井上 悟志 会長
「68 ヲ国・地域の国際機関・企業との協創実現とこれからの日本のリーダーシップ」
セーフティグローバル推進機構 藤田 俊弘 理事

4) 第10回向殿安全賞

産業安全の向上と進歩・普及などに貢献した個または団体を表彰する「向殿安全賞」の募集を行い、審査を経て以下の受賞団体、受賞者が決定した。

表彰式は、大阪・関西万博 EXPO ホール内で実施した。

[受賞者]

団体（企業）の部

【功績賞】日立建機株式会社

受賞表題「建設機械と現場安全活動を結びつける協調安全セーフティソリューションの開発と普及」

個人の部

【功労賞】 堤 和彦 氏〔前 IEC 副会長、MSB 議長〕

受賞表題「IEC 白書『Safety in the future』の発行と協調安全標準化の推進を主導」

【功労賞】 安部 誠治 氏〔関西大学 梅田キャンパス長／JR 西日本鉄道本部 技術顧問〕

受賞表題「社会安全学の発展及び運輸安全・事故調査システムの確立」

【功績賞】 Zhao Li〔G20 労働安全衛生ネットワーク 共同議長〕

受賞表題「G20 労働安全衛生ネットワーク、および米国労働省を通じた労働安全衛生への貢献」

【功績賞】 Dee Arp〔国際労働安全衛生専門家ネットワーク (INSHPO) 会長〕

受賞表題「国際労働安全衛生ネットワーク (INSHPO) による労働安全衛生への貢献」

【功績賞】 Malcolm Staves〔ロレアル グローバル健康安全担当 バイスプレジデント〕

受賞表題「ロレアルグループの安全文化構築をグローバルモデルとして定着」

【功績賞】 Majed bin Ibrahim Alfuwaiz〔サウジアラビア労働安全衛生評議会 (NCOSH)〕

受賞表題「サウジアラビア労働安全衛生評議会 (NCOSH) での労働環境の向上への貢献」

5) 安全監視団の派遣

World Robot Summit 2025 (WRS2025) の「モノづくりロボットチャレンジ」に対し、ロボット委員会から安全監視団を派遣し、競技の安全確保および参加チームへの専門的な安全支援を実施した。ロボットセーフティアセッサ資格保有者を中心に安全監視団を組織し、競技参加チームが提出したリスクアセスメントおよび技術資料の事前審査を行うとともに、競技前の安全確認検査、競技期間中の安全パトロールを実施した。また、安全に関する優れた取り組みを評価する Safety Award (安全賞) の審査を行い、ROBO-SUPPO satellite チームを安全賞として表彰した。

6) 雑誌、新聞への投稿

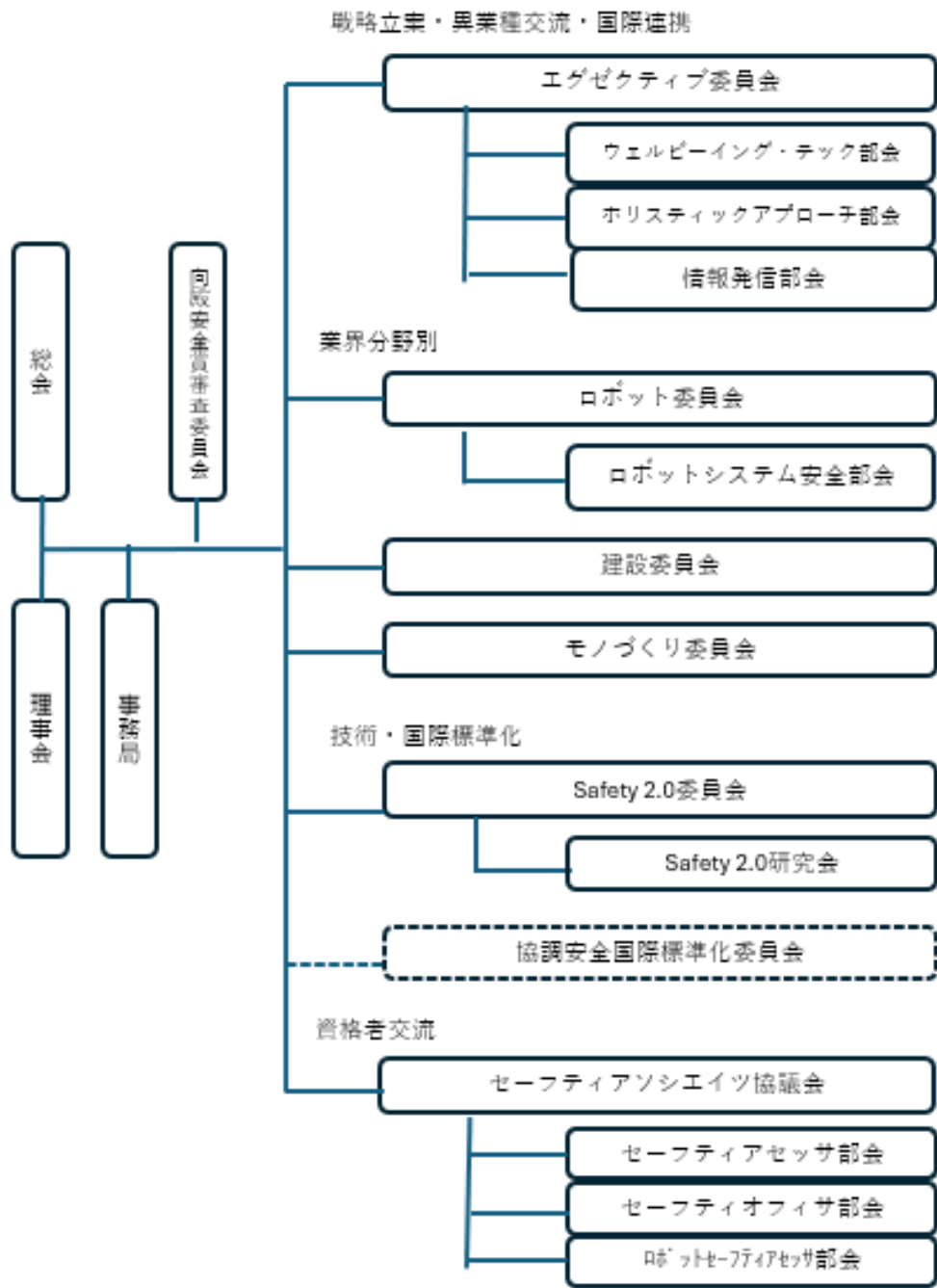
日刊工業新聞の働く人の安全・健康・ウェルビーイング紙面に、国内企業 8 社、国内関連機関 6 団体、海外企業 1 社、国際関連機関 9 団体の活動について、全 24 記事を隔週で掲載頂いた。

3. 標準化への取り組み

モノづくり委員会で検討を進めてきた協調安全に関するリスクアセスメントの成果をもとに、2025 年 8 月より、一般財団法人日本規格協会とセーフティグローバル推進機構が共同で JIS 原案の作成を開始する。これにあたり、委員会および分科会を設置し、効率的に規格開発を進めている。

4. 委員会活動

2024 年に設置したモノづくり委員会は本格的に活動を開始し、多くの会員企業の参加のもと、活発な議論・審議を行っている。また、他の委員会・協議会・部会においても、組織の魅力度向上を目指し、実施計画に基づいた活動を推進している。



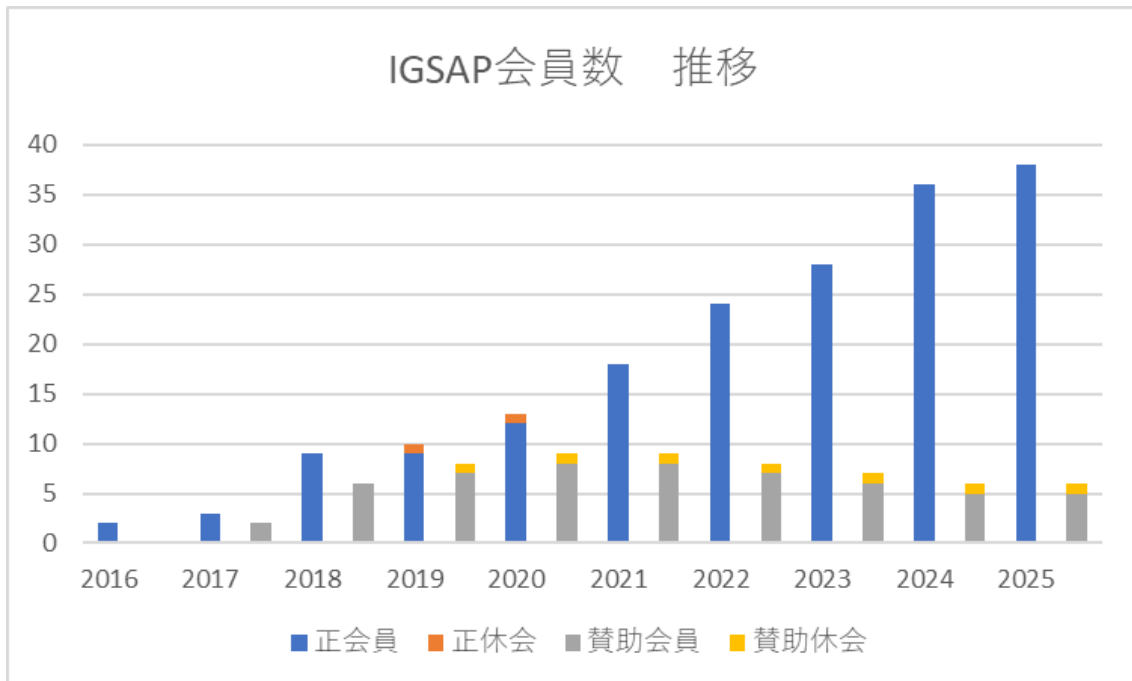
図：セーフティグローバル推進機構 の組織図

委員会、研究会、部会	責任者
エグゼクティブ委員会、安全経営フォーラム	藤田委員長
ロボット委員会	小平委員長
建設委員会	河田委員長
モノづくり委員会	延廣委員長
Safety2.0委員会、	谷川委員長
Safety2.0研究会	谷川主査
ロボットシステム安全部会	野田部会長
海外連携推進部会	藤田部会長
国内連携推進部会-ホリスティックアプローチ部会	吹田部会長
広報発信部会	栗原部会長
S A 協議会	小平会長
S A 部会	藤田部会長
R S A 部会	圖子部会長
S O 部会	黒澤部会長

表：各組織長（2025 年度）

5. 会員数

モノづくり委員会への参加を希望して、株式会社不二越、株式会社デンソー、日産自動車株式会社の3社が新しく入会した。



表：会員の入退会推移（2026年3月31日現在）

Ⅲ. 定時社員総会・理事会の活動報告

1. 定時社員総会の開催

2025年6月18日に定時社員総会を開催し、以下の議案について審議が行われ、原案どおり可決・承認された。

(議案)

- 第1号議案 2024年度事業、ご報告の件・
- 第2号議案 2024年度決算報告、監査報告、ご報告の件・
- 第3号議案 2025年度基本方針及び事業計画案、ご承認の件・
- 第4号議案 2025年度収支予算案、ご承認の件
- 第5号議案 代表理事(会長)交代、ご報告の件
- 第6号議案 名誉会長、ご承認の件

2. 理事会の開催状況

2024年4月から2025年3月までの間に理事会を4回開催し、以下の事項について決議を行った。

(1) 第1回理事会(2025年5月15日開催)

【議決事項】

- 第1号議案 正会員入会承認の件
- 第2号議案 2024年度実施計画報告および決算報告 承認の件
- 第3号議案 2025年度実施計画および予算案(3月理事会からの改定) 承認の件
- 第4号議案 向殿名誉会長 選任の件
- 第5号議案 事務局長交代 承認の件
- 第6号議案 RRI WG 入会 承認の件

【報告事項】

- 1)安全経営フォーラム講演、懇親会招待者
- 2)委員会年間スケジュール
- 3)緑十字賞(枝村氏)推薦について
- 4)標準化と品質管理全国大会2025の協賛について
- 5)その他

(2) 第2回理事会(2025年9月4日開催)

【報告事項】

- 1)本年度のRSA、SO、Safety2.0の現状と今後について
- 2)「WRS2025モノづくりロボットチャレンジの安全派遣団について」
- 3)「協調安全の達成を支援するリスクアセスメント」のJIS化

- 4) 緑十字賞 受賞報告
- 5) 事務局体制について
- 6) EXPO2025 大阪・関西万博イベントにおける報告（収支、課題、今後について）
- 7) その他

(3) 第3回理事会（2025年12月17日開催）

【議決事項】

第1号議案 副事務局長職務規程の承認

【報告事項】

- 1) 本年度予算の進捗状況と期末見込み
- 2) 来年度計画と本年度計画についてと今後のスケジュール
- 3) RSA 制度のタイでの開発
- 4) WRS2025 安全監視団派遣
- 5) ホームページリニューアルから1年経過して
- 6) IGSAP の将来に向けて
- 7) 大阪・関西万博以降の活動について
- 8) その他

(4) 第4回理事会（2026年3月25日開催）

【議決事項】

第1号議案 正会員入会承認

第2号議案 業務委託料改定および顧問契約

第3号議案 来年度計画（全体、各委員会、部会）

第4号議案 来年度予算案

第5号議案 エグゼクティブ委員会 委員長交代

【報告事項】

- 1) IGSAP の今後の発展について
- 2) 社員総会、安全経営フォーラム、懇親会について
- 3) 理事会日程について
- 4) HSE の来日に伴うイベント
- 5) 第23回東京産業安全衛生大会講演
- 6) 緑十字賞、顕功賞推薦
- 7) その他（事務局連絡 理事、監事、顧問の重任、退任など）

催事	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
社員総会			18日									
理事会		15日				4日			17日			25日
建設委員会		19日				8日		28日			27日	
ロボット委員会		26日			25日			10日			16日	
ロボットシステム 安全部会		14日			18日			4日			16日	
Safety2.0委員会 研究会		19日				8日		28日			27日	
エグゼクティブ 委員会		15日				4日			17日			25日
安全経営フォーラム			18日									
モノづくり委員会		16日		3日		5日		6日		22日		12日

表：2025年度総会、理事会、委員会、部会、研究会の開催実施日一覧

以上

エグゼクティブ委員会

2025年度活動結果

2025年度活動総括

*主に成果を中心に

1. GISHWの一員として、EXPOにおけるウェルビーイングのイベントを企画・実施し、大成功を取めた。
2. 国内外において協調安全やウェルビーイングに関する広報・普及活動を実施した。
- 3.

重点テーマ	2025年度活動結果			
	実施内容	評価	成果	反省と来年度への課題
1. 海外連携とイベント実施 (IGSAPや協調安全の認知度向上、会員への有益な情報の提供) -GISHWへの参画と万博を初めとするイベントの企画・実施	・GISHW活動をリードし、EXPO2025におけるGISHWイベントを企画および実施を行った。 ・プレイベントおよびアフターイベントを含め、国内外の関係者との調整を進め、協調安全およびウェルビーイングに関する情報発信の機会を創出した。	○	万博史上初めて「安全・健康・ウェルビーイング」をテーマとした11のイベントを開催し、68か国・地域及び国内から多くの参加があり、好評のイベントとなった。とりわけIEC会長とISO会長も参加し、IGSAPおよび協調安全の認知度向上に大きく寄与するとともに、今後の海外連携活動に向けた基盤形成につながった。当該イベント後、海外機関から協調安全に関する問い合わせが増加している。	IGSAPはこれまでGISHW活動の日本窓口を担ってきたが、今後さらなる発展および活動基盤の強化を図るため、当該機能を大阪大学産研協会へ移管する。 今後IGSAPは、大阪大学に設立されたGISHWコンソーシアムならびに国際標準化センターの主要メンバとして、国際標準化、認証制度の拡大を狙って連携する。
2. 情報発信の強化 (IGSAPの認知度向上、会員の満足度向上(有益な情報の提供))	・広報部会を設置し、以下を行った。 -ホームページ/メールマガジンの運用 -日刊工業新聞連載 -CIGSセミナー	○	組織として広報活動の企画および戦略立案を行う体制を整備し、継続的かつ計画的な情報発信を実現した。 これにより、会員に対する有益な情報提供が進み、満足度の向上およびIGSAPの認知度向上に一定の成果を上げた。	会員へのホームページに関するアンケートの実施などにより見えてきた改善すべき点について取り組み、さらに有益な情報提供を行えるように活動する。 またホームページ、メルマガなどにより個別に実施している情報発信について、総合的な観点からの発信についても企画、立案する。
3. 海外・国内連携推進 -SIAS2026開催に向けた活動 -国内企業・団体との連携(ホリスティックアプローチ推進)	・EXPO2025でのGISHW活動を契機として、国内外の企業・団体との連携を推進した。 ・2026年12月大阪でのSIAS2026開催を見据え、関連団体との情報交換および連携の可能性について検討を行った。	○	GISHWコンソーシアムが大阪大学に設立され、今後の国内外の関連団体との連携強化に向けた基盤が整備された。 これにより、次年度以降の活動展開に向けた体制構築が進んだ。	SIASについては、IEEE-ISRとNECAが主催、IGSAPは共催とする。 IGSAPは、協調安全や要員資格認証等に関して、会員による積極的な論文・発表投稿を推奨し、会員企業・団体の安全への取り組みを国際的に発信し、グローバルでの認知向上を図る。

注) 評価 ○ 90~100%達成
△ 50~89%達成
× 50%以下

企画・運営委員会

2026年度委員会活動計画

委員会の目的	委員会構成	成果物(レポート/刊行物など)
<ul style="list-style-type: none"> ・IGSAPの方向性や活動内容の戦略企画・立案、委員会に関わる総合的な運営の調整などを担い、IGSAPの発展に寄与する。 ・IGSAPの社会的認知を向上させ、新規会員の獲得につなげる。 ・フォーラムや各種シンポジウムの開催・参加を通じて、国内外の安全に関する最新の情報を提供する。 ・大阪大学 (GISHWコンソーシアム・標準化センター) 等との連携を推進する。 	企画・運営委員会 (14社30名) 委員長 吹田 和嗣 副委員長 栗原 潤	<ul style="list-style-type: none"> ・各種イベント ・広報資料、メディア資料

重点テーマ	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	備考
1. IGSAPの魅力度向上 ・委員会連携による戦略的価値創出の検討、実施 共通重点テーマ設定、推進 ・新規会員の入会促進	▽		▽		▽		▽		▽		▽		
	企画、検討 (共通テーマ事務局設立)		戦略的テーマ決定して実施										
	入会メリットの明文化 担当体制決定		ターゲットリスト作成 入会資料準備		個別訪問活動、 参加体験型アプローチ								
2. 会員に対するIGSAPの魅力度向上に向けた、国内外企業・機関と連携したイベントの実施 (広報部会、国内連携部会との連携)	▽		▽		▽		▽		▽		▽		
	HSE来日シンポジウム		安全経営フォーラム		会員による積極的な講演参加、論文投稿を推奨、展示会出席		ROBONEXT/SIAS						ROBONEXTの際の国際標準化・GISHWシンポジウムは、大阪大学・産研協会が主催、IGSAPは共催。 SIASはIEEE-ISRとNECAが主催、IGSAPは共催。
3. 海外との協業活動の移行と今後の協業 ・GISHW活動で構築したグローバル産官学ネットワークを大阪大学産研協会へ移管し、IGSAPはその主要メンバーとして国際標準化・認証制度拡大に向けて連携	▽		▽		▽		▽		▽		▽		
	GISHWコンソーシアム (2025年11月設立)		大阪大学国際標準化センター設立予定		移管		コンソーシアムの一員として参画						

ロボット 委員会 2025年度活動結果

2025年度活動総括 *主に成果を中心に

- ISO10218-1:2025,ISO10218-2:2025規格改定にともなうRSA力量基準の見直し検討。
- ロボットシステムインテグレーション協会へのSA資格制度の普及活動の実施。
- WRS2025開催における支援活動の実施。

重点テーマ	2025年度活動結果		
	実施内容	評価	成果
1 ロボット、ロボットシステムの安全調査 ISO10218-1,-2:2025改定内容精査研究 ・ロボット規格改定に伴うRSA資格の力量基準見直し ・力量基準の見直しに基づき、現行教育、資格の見直し提案	・ISO10218-1:2025,ISO10218-2:2025改訂ポイント検証 ・現行RSA、IGSAP基準による力量基準の比較検討	○	規格改定ないようについて検証を実施。ロボットアプリケーション、コラボティブアプリケーション、サイバーセキュリティ等新たな用語や安全機能についての改定ポイントを検証。要求事項等について現行RSA資格要件と比較、力量基準の見直しを進めることになった。
2 RSA資格制度の普及、促進活動 ・日本認証と協業して各種団体への広報、普及活動 ・Sier協会コラボによる連携及び冬期講習会実施	・ロボット展等におけるRSA資格制度の普及 ・Sier協会会員に対し、SA資受験に向けての提案の実施	○	Sier協会会員向け、基本編(SSA対象)、ロボット編(RSA対象)eラーニング講習を実施しSA資格、RSA資格取得にむけた普及活動を実施した。
3 WRS2025「ものづくりロボットチャレンジ」への支援 ・安全要求仕様書、RAシート活用推進 ・WRS2025安全監視団派遣等	・ロボットシステム安全部会、SA協議会RSA部会と連携し、WRS A2025モノづくりチャレンジでの安全支援の実施	○	WRS競技参加チームに対し、安全要求仕様、リスクアセスメントシートひな型を活用いただき、またRSA資格者による安全監視団の活躍により、開催期間中の安全アドバイスや安全審査を実施し、災害事故もなく終えることができた。

注)評価 90~100%達成 ○
 50~89%達成 △
 50%以下 ×

ロボット 委員会 2026年度委員会(部会)活動計画

委員会(部会)の目的 ロボットシステム分野での安全化を担う人材の育成を図るために、ロボット安全資格制度の構築や普及拡大を図る。またロボットシステムのオペレーション、インテグレーションの安全化に向けた人材育成、安全資格制度の構築を促進する。	委員会(部会)構成 名 委員長:小平紀生 副委員長:ー 委員会メンバー:(8)社(16)名 オブザーバー:ー	成果物(レポート/刊行物など) 資格制度体系 IGSAPロボットセーフティアセッサ力量基準改定規定
---	---	--

重点テーマ	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	備考
委員会開催		○			○			○			○		
1 RSA資格制度の見直し ・力量基準に見合うRSA資格体系の検討と資格制度の見直し		資格体系の見直し案検討、資格制度設計							活動まとめ				
2 他組織との連携活動 ・AOTSとの連携によるタイでのロボットの安全資格制度の開発、普及 ・Sier協会との連携による特別教育の見直し		タイ向けロボット安全資格制度普及推進							a 活動まとめ				
3 ロボットシステムのスコープ拡大 ・建設分野など非製造業分野への展開可能性検討		活動計画立案		企画提案		実施		活動まとめ					

建設委員会

2025年度活動結果

2025年度活動総括

* 主に成果を中心に

- 大阪万博、未来モブくりEXPO2025にて、「建設業界の安全に対する取り組み」の企画運営を成し遂げ、国内外に発信。
- 建設協調安全の定義を建設委員会メンバーで共通認識化。

建設委員会：5月19日、9月8日、11月28日、2月27日

重点テーマ	2025年度活動結果		
	実施内容	評価	成果
1 建設業界での安全への取り組み、安全方策を国内外に発信することにより、IGSAPの知名度、認知度の向上を目指し会員数を増加する。 ・国内外の講演会での講演、雑誌において記事投稿する。	未来モブくりEXPO2025内の国際シンポジウムにて、建設業界の安全に対する取り組みを建設委員会メンバーで企画運営、発表。また、大阪万博にてクレーンの遠隔技術の紹介を河田委員長が誘致。企画運営を行い世界に発信する。	○	未来モブくりEXPO2025内の国際シンポジウムにて、建設業界の安全に対する取り組みを建設委員会メンバーで企画運営、発表。また、大阪万博にてクレーンの遠隔技術の紹介を河田委員長が誘致。企画運営を行い世界に発信する。IGSAP並びに建設委員会の認知度の向上に貢献した。
2 建設業界での安全方策(IGT活用した商品、システム及び安全事例、課題)の発表から安全方策について討議、検討、実行する。 ・発表(委員会参加各社、外部有識者、建設関連会社など) ・建設セーフティオフィサの建設現場への浸透を推進。	・「建設業における協調安全」をより具現化する為に定義化する活動を行う。 ・建設セーフティオフィサの認知活動として、三原委員が建設現場にPR活動を行い、委員会に報告。	○	・建設委員会として基本に立ち回り、委員に対するアンケートをもとに「建設協調安全」について議論を行い定義を共有。第4回建設委員会で文書化。 ・建設セーフティオフィサの認知が少しずつ広まりつつある。
3 Safety2.0委員会との連携「建設業における協調安全」の定義化を行い、建設現場の課題をSafety2.0を使った解決策を実現現場を使った概念実証の素案を作成する。	第一回、第二回とSafety2.0委員会と協議の時間を設ける。その後は協議ではなく、オブザーバー参加となった。	△	Safety2.0委員会との協議の結果、まずは協調安全の定義を建設委員会で共通認識化する必要があり、その上でSafety2.0委員会と連携する必要があると結論づく。Safety2.0委員会と議論することで建設委員会としてやるべきステップ(手順)が見えた。

注) 評価 90~100%達成 ○
50~89%達成 △
50%以下 ×

建設委員会

2026年度委員会活動計画

委員会の目的

建設業界における協調安全の考え方を建設業界に発信し、業界の安全化に貢献し、推進する。建設分野の共通した安全の課題に対して、その解決策としてビジョンや仕組みの構築、人材や委員の育成、技術、標準化などの観点から勉強、協議、コンテンツを具体化していく。

委員会構成

委員長(部会長)： 委員長 河田孝志
副委員長 宮内 良和 副委員長 杉浦 伸哉
副委員長 枝村 学
総数41名、22社

成果物(レポート/刊行物など)

建設委員会の事例報告書(記事投稿、出版物)

重点テーマ	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	備考
1 委員会開催予定 建設協調安全の定義をもとに、IGSAP建設委員会として建設業界に発信するコンテンツを協議、作成、発信。 ・建設協調安全の定義を委員共通認識化。 ・各作業ベースに落とし込んだWGで協議、委員会にて進捗発表 ・委員の見識を深めるために必要な有識者の委員会における講演誘致。 ・協調安全における「人」を育てるツールとして開発された建設SOの資格者数の拡大。		○			○				○				
			○ WGの結成						○ RoboNext2026				
2 建設業界での安全への取り組み、安全方策を国内外に発信することにより、IGSAPの知名度、認知度の向上を目指し会員数を増加する。 ・国内外の講演会での講演、雑誌において記事投稿する。(日経BP等)									○ RoboNext2026				IGSAPブースにて、建設委員会の紹介。
	「仮設工業会」の動向をウォッチする。												

Safety2.0 委員会

2025年度活動結果

2025年度活動総括

*主に成果を中心に

1. 協調安全の普及のため、アカデミアの参画を促進するための課題整理ができた。
2. 「協調安全」にかかわる情報について、様々な観点からの情報を共有することができた。
3. 委員会 第1回 2025/5/19(委員会研究会合同)、第2回 2024/9/8(委員会研究会合同)、第3回 2024/11/28(委員会研究会合同)、第4回2025/2/27(委員会研究会合同)

重点テーマ	2025年度活動結果			
	実施内容	評価	成果	反省と来年度への課題
1. Safety2.0委員会 協調安全技術の普及拡大のための検討、企画推進を行っている。 産学での協調安全の認知度を高めるため学会等・展示会での活動を計画	①「アカデミア」をもっと巻き込んだ「学」としての安全、安心、ウェルビーイングに関する研究活動の強化に向けた意見交換会実施 参加者:山田先生・北條先生・中村先生・向殿先生 ②GISHWIにおける協調安全に関する発表 ウェルビーイングに向けた人機械協調技術(議長:谷川氏) 人口減少に備える社会における人機械協調(議長:中坊氏) 協調安全を実現するためのモノづくり企業における包括的アプローチの実践例(議長:梶原氏)	○	①安全技術とウェルビーイングの分野における産学連携の現状と課題について、多角的な視点から意見が交わされた。論点が整理できた。 ②協調安全についての関心度を高めることができた。	国際会議の開催を契機に、企業と学術の連携を強化し、安全技術とウェルビーイングに関する研究の体系化と評価手法の確立を進めることが求められている。 特に、学会活動の活性化や学生の関心を高める教育の充実や、心理学やデータサイエンスとの連携が重要である。 安全・安心・ウェルビーイングの包括的な理解と評価体系を構築し、技術的・社会的ニーズに応えることで、持続可能な産学連携の基盤を築くことを目指していく。
2. Safety2.0委員会 建設委員会との連携活動 建設事故への協調安全技術の適用検討 ・「協調安全」の定義、目的の認識共有 ・協調安全技術の適用検討	・建設・土木業界における「協調安全」について、建設委員会でのまとめ資料の共有	△	建設・土木業界の困りごとについての理解を深めることができた。	「協調安全」について概念的な共通理解はされているが、具体的な手段として認識のずれはまだある。
3. Safety2.0研究会 協調安全に係る新たな考え方を幅広く学び、これらを実現するための技術を共有する	第2回(9/8) 1)ウェルビーイングに向けた人機械協調技術(谷川氏) 2)人口減少に備える社会における人機械協調(中坊氏) 第3回(11/26) ・安全技術情報として欧州機械規則についての最新情報について(神奈氏) ・産総研における協調安全に関する最新技術情報について(谷川氏) 1)産総研におけるウェルビーイング実装研究 2)ウェルビーイングの国際標準化への取り組み 第4回(2/27) GISHW 国際シンポジウム情報展開(WEB)	○	協調安全を実現する上での様々な観点からの情報を共有することができた。	来年度も継続する

注)評価 90~100%達成 ○
50~89%達成 △
50%以下 x

Safety 2.0研究会

2026年度委員会(部会)活動計画

委員会(部会)の目的

2024~2025年度の活動を通じて、協調安全(Safety2.0)に関する概念的理解と関心喚起は一定程度進展した。一方で、「協調安全とは何か」「どこまでを対象とし、どのように評価するのか」といった定義・適用範囲・評価観点については、関係者間で認識のばらつきが残っている。
2026年度はこれらの課題を踏まえ、協調安全(Safety2.0)の定義・適用範囲・評価観点を委員会として整理・合意し、「共通言語」として確立することを最優先の目標とする。

委員会(部会)構成 47名

主査:谷川 民生
研究会メンバー 22社47名

成果物(レポート/刊行物など)

1. 協調安全(Safety2.0)の定義・適用範囲・評価観点(委員会合意版 v1)
2. 協調安全(Safety2.0)に関するQ&A資料(誤解防止・普及用)

重点テーマ	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	備考
研究会開催予定日		5/18				9/10			11/30			3/2	
協調安全(Safety2.0)の定義・適用範囲・評価観点を共通言語化する													
1 ①協調安全(Safety2.0)の研究会としての定義 ②適用範囲(製造、建設、サービス等への考え方) ③評価観点(リスク低減の考え方、目標設定、残留リスクの扱い) ④機械安全との違いや、現場で生じやすい誤解の整理(Q&A)													①②③④の再説明 疑問点の抽出 Q/Aについて議論 まとめ
建設分野における協調安全適用の検証													
2 ①建設委員会と連携し、建設分野における協調安全の課題や困りごとを整理する。 ②上記(1)で整理した定義・評価観点をを用いて、建設分野での適用シナリオの検証を行う。 ③必要に応じてワークショップ等を開催し、適用上の論点を整理する。													① ②
普及拡大活動													
3 ①学会、研究会、国際会議等において、協調安全(Safety2.0)の考え方および委員会での整理した定義・評価観点を発信。 ②IEC Guide127(協調安全規格策定の指針)の情報共有													(産総研技術紹介) ①情報共有 Guide127 ②情報共有

モノづくり委員会

2025年度活動結果

2025年度活動総括

*主に成果を中心に

- 1 協調安全のリスクアセスメント及びリスク低減に関するJIS化について、予定通りJSAIに公募し、推進中
- 2 共存や協働などのロボットとの近接作業における課題、既存の安全機能や最新の国際規格について情報共有を実施
- 3 モノづくりEXPO2025での委員会としての協調安全の提案展示、各種シンポジウム・フォーラム等でのモノづくり委員会の取組を発表

重点テーマ	2025年度活動結果		
	実施内容	評価	成果
1 協調安全のリスクアセスメントについてはJSAでの公募で、JIS化する。	<ul style="list-style-type: none"> ・2024年度からの継続テーマ ・今年度はワーキンググループを5回(累計16回)開催 ・協調安全のリスクアセスメント及びリスク低減として、設計者と使用者の相互連携や、人と機械間での情報のやりとりをするための情報伝達システムに関するJIS原案を完成 ・2025年5月JSAI(一財)日本規格協会JIS原案共同作成事業に公募 ・2025年9月:JIS化委員会へのJIS原案の提出 ・第1回JIS原案作成委員会:25/10/17開催 ・第2回JIS原案作成委員会:26/01/30開催 	○	<ul style="list-style-type: none"> ・2025年8月:公募が採択され、JSAI(一財)日本規格協会)にとJIS原案共同作成事業の契約締結 ・JIS化委員会/分科会の委員に複数のモノづくり委員会委員に参画いただいた ・経済産業省、厚生労働省にもJIS化委員会委員として共感いただくこととなり、JIS発行の際には経済産業大臣及び厚生労働大臣の共官となる ・厚生労働省及び関連団体は労働安全衛生法及び機械の包括的な安全基準に関する指針との齟齬が無いことを非常に気にすることが分かった
2 人とロボットとの共存環境における安全方針について既存規格、機器での対策と将来的な方針について討議して、報告書としてまとめるともに協調安全の実証実験を実施する。	<ul style="list-style-type: none"> ・2024年度からの継続として、共存・協働作業における課題に関するアンケートの共有、議論を実施 ・協働アプリケーション用のロボットの安全機能活用に関する情報共有の実施 ・最新のロボット規格:ISO10218-1,-2:2025に関する情報共有の実施 	○	<ul style="list-style-type: none"> ・近接作業の際の保護方策(安全距離(分離距離)を含む)、力量の判断基準、作業者の心理負担、作業者への情報共有手法に課題があることが分かった
3 協調安全の普及の為に広報活動(展示会、講演会、記事投稿など)を実施する	<ul style="list-style-type: none"> ・2025年7月:未来モノづくりEXPO2025にて、協調安全に資する展示(ご協力:IDEC様、パトライト様、ファナック様、安川電機様(50音順)) ・2025年7月_国際シンポジウム、国際標準化フォーラム ・2025年11月_機械設計12月号(日刊工業新聞社)寄稿 ・2025年12月_国際ロボット展 <p>各委員にご協力いただき、成功裏に終える</p>	○	<ul style="list-style-type: none"> ・実施内容の通り、協調安全の社会への浸透を図った。
			<ul style="list-style-type: none"> ・第3回JIS原案作成委員会:26/04開催予定 ・JSAIとの契約に基づき、2026年5月末日の期日までに成果物:JIS原案、解説等の作成を完了し、JSAIに提出する必要がある。 ・そのためにも、JIS化委員会委員からのJIS原案に対するコメントへの真摯な対応が必要となる。(期日通りに成果物を提出したとして、パブリックコメントへの対応、所定の手続きを経て2027年4/5月頃のJIS発行見込) ・重点テーマ1の協調安全のリスクアセスメントに関するJIS原案との関係性も踏まえ、協調安全実装における課題を確認し、IGSAPとしてのガイドライン作成を検討 ・RoboNext2026@インテックス大阪、2026/12/2~4 ・SIAS2026 ・上記の機会を活用し、引き続き協調安全の社会への浸透を図る。

注)評価 90~100%達成 ○
50~89%達成 △
50%以下 x

モノづくり委員会

2026年度委員会(部会)活動計画

委員会(部会)の目的	委員会(部会)構成	成果物(レポート/刊行物など)
日本発の新たな安全の考え方である「協調安全」をモノづくり現場への普及することにより、安全性と生産性の両立、ならびに現場で働く人が生きがい、やりがいを感じられる「働く人のウェルビーイング」の実現を目指す。モノづくり現場が抱える課題に対し、協調安全で解決するために必要なルールや要件の明確化および国際標準化に向けた取り組みを行う。	<p>委員長:延廣 正毅 副委員長:梶屋理事、吹田理事 委員会メンバー:21社、38名 オブザーバ:経済産業省/ロボット政策室、国際電気標準課、谷川センター長(産総研)、北條先生(長岡技科大)</p>	人と機械の共存/協働環境における近接作業時の安全性と生産性の両立に関するガイドライン (協調安全のリスクアセスメント及びリスク低減のJIS原案)

重点テーマ	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	備考
委員会開催		○		○		○		○		○		○	
1 モノづくり現場において協調安全を達成するためのリスクアセスメント及びリスク低減に関する標準化:JIS B9750規格開発		△JIS化委員会		△JIS原案・解説等作成完了		△JIS原案の内容の解説(パブプロ後)		△IEC GUIDE127の説明会		← JIS発行に向けた所定の手続き・問い合わせ対応(都度) →			JIS原案・解説作成完了: ~26/5/未締切 (JIS発行:2027/4 or 5頃見込)
2 モノづくり現場への協調安全の実装促進: ・協調安全実装に伴う課題抽出(技術、要員、ルール、マネジメント)及び課題解決のためのガイドライン作成 ・モノづくり現場の協調安全に関するユースケース/動向スタディ		△アンケート実施		△アンケートに基づく課題抽出・優先順位付け		△優先順位に基づくWG設立、ガイドライン作成		△ユースケーススタディ		△ユースケーススタディ		△ガイドライン中間報告	
3 モノづくり委員会での協調安全に関する取組み成果の広報・啓発活動 ・展示会、シンポジウム等での発表・登壇				△モノづくり現場における協調安全に関する講演								△RoboNext2026	

SA協議会

2025年度活動結果

2025年度活動総括

*主に成果を中心に

SA部会

a1: 部会幹事会は9回、座談会は3回実施できた
a2: スキルアップミーティングは3回実施できた
a3: GISHWでシンポジウムを実施できた

RSA部会

r1: RSA部会スキルアップミーティング企画
r2: WRS2025安全監視団派遣

SO部会

o1: SA部会スキルアップミーティングに参加。
o2: 部会員にIGSAPの活動情報の提供

重点テーマ

2025年度活動結果

重点テーマ	実施内容	評価	成果	反省と来年度への課題
a1 オンラインでの部会 対面での座談会 ・スキルアップミーティングの企画 ・外部団体との交流	3回のスキルアップミーティングの企画 ①機械指令から機械規則への改定について ②第10回向殿安全賞受賞者講演 ③ISO13849-1問題解説 3か所を訪問し、見学、アドバイスをを行う ①SICK本社 ②SICK名古屋営業所 ③ULVAC本社	○	3回のスキルアップミーティングの企画 ①②③スキルアップミーティングの実施 3か所を訪問し、見学、アドバイスをを行う ①最新安全機器の情報共有 ②最新安全機器の情報共有 ③半導体製造設備製造工程への安全アドバイス	幹事の所属企業のみならず、他外部団体との交流を持つことができなかった。
a2 スキルアップミーティングの実施 ・資格者への情報提供、資格者間交流 ・RSA、SO部会との連携	3回のスキルアップミーティングの実施 ①7/15: SICK Gornemann氏 The new machinery regulation Status - Problems - Standards ②1/30: 日立建機 田中氏 建設機械と現場安全活動を結びつける 協調安全ソリューションの紹介 ③2/20: OMRON 松川氏 ISO13849-1(予定)	○	3回のスキルアップミーティングの実施 ①512名参加 ②551名参加 ③331名参加予定	オンラインミーティングばかりで、会場における資格者間の直接的な交流を行うことができなかった
a3 GISHWと大塚方博への参加 ・シンポジウムの実施	7/18: International Symposiumで下記の発表 ①IGSAP 向殿氏 SA協議会の目的と社会的意義 ②IDEC 前田氏 Realizing Safety Vision through Human Resource Development Utilizing Safety Assessor and Safety Officer Qualifications ③NSK 原氏 安全要員資格制度を活用した人材育成による安全・安心な職場づくり	△	聴講者十数名	事前のアピールが足りず、受講者が少なかった
r1 スキルアップミーティングの企画、開催 ・前回開催アンケート結果をもとに委員の要望に沿った企画の立案、実施(1回/年)。	前回のスキルアップミーティングのアンケート結果に基づき、今年度スキルアップのテーマを企画検討。	△	スキルアップテーマ「ISO10218規格改正について」企画立案。当初2月開催計画したが、他部会のスキルアップミーティングが2月に集中したため2026年6月開催に変更。	今年度開催ができなかったが、2026年6月開催に向け準備を進めていく。
r2 WRS2025安全監視団派遣	12月開催のWRS2025にRSA部会委員より安全監視団派遣のための企画立案、人選、大会参加チームの事前審査を実施。	○	RSA部会メンバーより9名S人選し派遣。また大会事前審査として提出されたリスクアセスメントシート及び図面関係の事前審査をおこなった。	RSA部会として、2020年に引き続き2回目の派遣であったが、前回の反省をもとに派遣団の人選に際し、ロボットシステム構築経験者を主体としたため、大会事務局より好評を得た。
o1 スキルアップミーティング(1回/年)を開催。	SA部会のスキルアップミーティングに参加する形で開催。	△	SO部会は現状部会としては名ばかり。単独開催には至らない。	SA部会のようにSO部会のメンバーで活動を支えるメンバーを選定し、部会員で企画できる体制をつながる。
o2 SOの認知と資格者の立場向上のために、部会員にIGSAPの活動情報の共有。	2025年7月に行った国際シンポジウム等の情報を発信、建設セーフティオフィサの紹介をSA協議会として行う。	○	資格者が発表を行ったことで、SO資格者の認知活動としては成功。建設SO紹介セミナーは400名のオンライン参加。	SA部会のようにSO部会のメンバーで活動を支えるメンバーを選定し、部会員で企画できる体制をつながる。事務局としてSO資格者に提供できる場をIGSAPに対して求めることを行う。

注) 評価 90~100%達成 ○
50~89%達成 △
50%以下 x

SA協議会

2026年度委員会(部会)活動計画

委員会(部会)の目的	委員会(部会)構成 名	成果物(レポート/刊行物など)
SA資格者の社会的認知度の向上 技術力の向上 社会的地位の向上 SA資格者間の情報交換	SA部会 部会長: 藤田 拓磨 幹事: 37名 会員: 2,824名 RSA部会 部会長: 園子 憲司 幹事: 5名 会員: 333名 SO部会 部会長: 黒澤 慧介 幹事: 4名 会員: 112名	幹事会議事メモ スキルアップミーティング報告書

重点テーマ	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	備考
SA部会 オンラインでの部会 対面での座談会 ・スキルアップミーティングの企画 ・外部団体との交流 スキルアップミーティングの実施 ・資格者への情報提供、資格者間交流 ・RSA、SO部会との連携	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
	←	開催	→										
RSA部会 委員会開催 スキルアップミーティングの企画、開催 (1回/年)6月開催 規格改正に伴うスキルアップ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
	←				企画、検討、実施								
SO部会 委員会開催 スキルアップミーティング(SUM)、企業見学会、交流会の企画(1回/年)12月開催。	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
	←								SUM開催				Robonextに合わせて、交流会に参加等

ロボットシステム安全部会 2025年度活動結果

2025年度活動総括 *主に成果を中心に

1 WRS2025モノブクチャレンジ安全監視団派遣等競技のための安全についての準備、期間中の安全活動を実施し、事故等なく無事開催支援をおこなった。

2

3

重点テーマ	2025年度活動結果			
	実施内容	評価	成果	反省と来年度への課題
1 WRS2025に向けての支援準備 ・安全要求仕様の実施に向けての精査、参加者向けロボット安全講習企画、安全監視団スキル標準化企画等	・実施に向けてのスケジュールの作成 ・安全要求仕様、リスクアセスメントシートの提供 ・安全監視団の募集、選考、事前説明会の実施 ・競技参加チームの事前提出リスクアセスメントシート等資料の審査 ・大会期間中の安全監視及び安全賞の審査	○	昨年度までに作成した安全要求仕様、リスクアセスメントシートをもとに競技チームより提出された書類を審査、アドバイスを実施。また、安全監視団の選考および事前説明会を実施して競技期間中の完全確保のための統一を図り、無事事故などなく競技を終えることができた。	今回使用した安全要求仕様書及びリスクアセスメントシートを、競技会、展示会用途として広く活用できるよう展開していく。
2		○		

注) 評価 90~100%達成 ○
50~89%達成 △
50%以下 x

ロボットシステム安全部会 2026年度委員会(部会)活動計画

委員会(部会)の目的	委員会(部会)構成 7名	成果物(レポート/刊行物など)
ISO10218規格改正の精査研究を通じて、システムインテグレータや教育現場での安全教育的な在り方を探る。	部会長: 野田哲男 副委員長 委員会メンバー (5) 社 (6) 名 オブザーバ	ISO10218シリーズにおけるリスクアセスメントと安全要求事項まとめ

重点テーマ	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	備考
委員会開催		○			○			○			○		
1 ISO10218規格改正内容の精査研究 ・ロボットシステムのリスクアセスメント ・ロボットシステムの安全要求仕様まとめ		← 精査研究のための企画作成 →			← メンバーによる規格改正精査研究 →					← 精査研究内容のまとめ →			
2													
3													

広報発信 部会 2025年度活動結果

2025年度活動総括

*主に成果を中心に

- 1 万博の関連行事の前後にCIGSと協力して公開セミナーを実施し、Home Pageに公開。小冊子も作成。
- 2 日刊工業新聞紙上に連載記事を掲載。継続的に実施し、Home Pageに掲載。内外からの反響あり。
- 3 Home Pageを活用して、情報発信、会員との情報共有に関しては更なる努力が必要。その課題解決に向けて今後検討。

重点テーマ

2025年度活動結果

	実施内容	評価	成果	反省と来年度への課題
1 IGSAPのミッション・活動内容に関する、国内外に対する広報活動。	1.1 6/2及び10/10にCIGSと共同で公開セミナー、「AI・ロボットを 実装した日本社会：ワークプレイス・ウェルビーイングと生産性 向上に向けた標準化戦略」を2回開催。開催結果をウェブサイト で公開。印刷して小冊子を作成。 1.2 12月3-5日、International Robot Exhibition (IREX) 2025でパネ ル討論会開催。 1.3 日刊工業新聞紙上で連載記事を掲載。	○	EXPOIにおける活動の前後で東京方面での広報活 動が実施できた。内外関係者からの認知度が向上 した。 マス媒体との連携による情報発信の実施。連載記 事を随時配信。2026年2月までに累計23の記事を掲 載。 高い評価を受けている。	引き続き公開セミナーを実施、IGSAP活動の認知度向上に向け た活動を実施する。 日刊工業新聞の連載記事を継続的に掲載。
2 IGSAPと関連がある海外諸機 関の活動に関する情報収集。	12月に欧州出張。既存の海外ネットワークの継続・維持活動と、 IGSAPの将来における活動内容の検討。	△	英米独等の研究者と将来のIGSAP活動に関して議 論。英仏独のロボット開発に関する安全基準に関す る研究者と面談。	IGSAP内での情報共有に関する努力が足りなかった。将来に向 けて要検討事項。
3 IGSAP内における情報共有(情 報収集と情報発信)。	事務局が実施したアンケート調査に基づき、来年に向けて更なる 洗練化を検討。	△	事務局のホームページアンケート結果に関する評 価検討。 最新情報を入手した時に、IGSAP内で情報共有 EXPO関連情報の発信。	広報部会内及び事務局との議論が不十分。
4 IGSAP会員向けにメルマガの 充実とHPとの連携。	メルマガでの国内外の関係機関と連携した話題/イベントの提供 メルマガを導線としたHP誘導で、HP活用の活性化を図る。	○	メルマガは事務局の努力により成果あり。上記活動 に忙殺され、25年度は計画のみで、実際の活動に 関しては殆ど実現出来ず。	26年度に更なる質的向上を図るため、内部検討会を実施する必 要あり。

注) 評価 90~100%達成 ○
50~89%達成 △
50%以下 x

広報発信 部会

2026年度活動計画

委員会(部会)の目的

IGSAP活動を内外に向けた情報発信
関連情報の収集

委員会(部会)構成 3名

委員長 栗原
副委員長
委員会メンバー(2)社(2)名
オブザーバ

成果物(レポート/刊行物など)

セミナー開催後の小冊子作製、HP公開。

重点テーマ	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	備考
委員会開催		○					○		○			○	
1 IGSAPのミッション・活動内容に関する、国内外に対する 広報活動。		○HSE来日	○公開セミナー				○公開セミナー		○公開セミナー				・公開セミナーをCIGS等諸機 関と協力で実施 ・マス媒体との連携による情 報発信の実施
2 IGSAP内における情報共有(情報収集とメルマガ・HPを通 じた情報発信)。		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○		事務局・広報部会合同会議 で連携を密にする。 最新情報入手時に情報共有 メルマガを通じた情報提供 メルマガと連携したHP活用
		事務局・広報部会合同会議											

